

一宮市三岸節子記念美術館

# 三岸節子〈短歌ポスト〉入選作品（令和六年前期分）

選者 小塩卓哉（現代歌人協会理事）

## 【優秀作】

\*白い花\*

白い花すべての光はねかえし生きる力を我に与えん

稲沢市 服部 潔

三岸節子  
《白い花（ヴェロンにて）》  
1989年 ©MIGISHI

〔評〕下句の「生きる力を我に与えん」に作者の強いメッセージがこもる。それは節子のモチーフの強さでもあるだろう。そもそも、白色とはすべての光をねかえすから白なのである。ところが、そんな性質を、自分が生きていくための力とみなしたところに、鑑賞としての発見があるだろう。

\*花\*

赤々と壺より出でて咲き誇る咲くや咲く赤々の花

横須賀市 丸山 純子

三岸節子  
《花》  
1989年 ©MIGISHI

〔評〕第四句の「咲くや咲く咲く」は、この作者独特の繰り返しの手法。第三句の「咲き誇る」様子を見事に表現している。「赤々」の語も一首の中で二回用いられており、これもこの絵画の描写を表現するのに効果を上げているだろう。節子の濃厚なタッチを、言葉遣いによって再現してみせた作。



\*ブルゴーニュにて\*

鳥たちは明と暗とをさまよひて節子はひとり菜の花に佇つ

犬山市 有本 仁政

三岸節子  
《ブルゴーニュにて》  
1989年 ©MIGISHI

〔評〕この絵画もよく短歌にされる作品であるが、特徴的なのは、絵画に描かれていない節子を短歌の中に登場させたことである。突然嵐が訪れ鳥たちが飛び立つ様子の中に登場させるが、そんな状況を眺めている節子の姿がその時の心象とともに読者の前に提示されていく。「ひとり」の語も節子の絵筆をとる時の思いを表して秀逸である。



【佳作】

\*細い運河\*

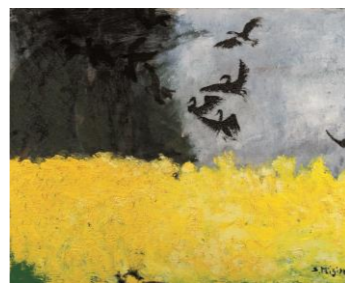
ヴェネチアの細き運河に映る空明けか暮れかは知らねど深し  
瀬戸市 谷口 富美子



三岸節子《細い運河》  
1974年 ©MIGISHI

\*ブルゴーニュにて\*

春迎えヒカリ溢るる大地より鳥舞いゆくは和みの大樹  
一宮市 岩田 美子



三岸節子  
《ブルゴーニュにて》  
1989年 ©MIGISHI

\*白い花\*

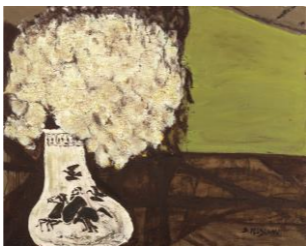
キャンバスに収めたはずの静と動それでも聞こゆ白き雄叫び  
稲沢市 安田 一子



三岸節子  
《白い花 (ヴェロンにて)》  
1989年 ©MIGISHI

\*白い花 (ヴェロンにて)\*

白い花黒に潰され傾いても黒より強くそこに在る白  
横浜市 宮森 敬子



三岸節子  
《白い花 (ヴェロンにて)》  
1989年 ©MIGISHI

\*花・太陽\*

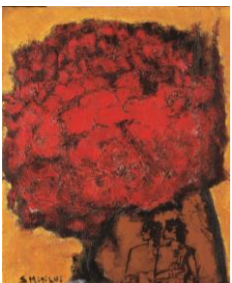
花ありて安らぎありて日の昇り明日生きんとし我れおだやかに  
一宮市 河合 いづみ



三岸節子《太陽》  
1964年 ©MIGISHI

\*花\*

赤い花きれいにさいた心の絵自分だけの絵赤い花の絵  
羽島市立中央小学校 四年生 田畑 いおり



三岸節子《花》  
1989年 ©MIGISHI